

会 議 録

1 会議名

令和4年度第3回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的審議事項（公開）

(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和4年6月7日（火）午後6時30分から午後8時45分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、難波一仁、横尾哲郎
- ・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、小林次長、佐々木グループ長、藤井班長、田中主事（以下、グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【小林次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：折笠委員に依頼。
- ・本日の自主的審議事項である(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

- ・まず、事前配布資料の一つである「牧区地域協議会 自主的審議に伴う活動状況」について説明させていただく。前回の地域協議会において、今年度、地域協議会から地域の活力向上を目指して取り組んでいただきたいことを2点説明させていただいた。その一つである自主的審議事項を進めることに関しては、昨年度、スポーツ団体の保護者や牧振興会、個人で開業された方などと意見交換を行い、牧区の課題として挙げたものを事務局で大きな項目ごとに整理したものが表の右に記載されているものであり、赤字で項目としているものは、あくまで課題を分類するためのものである。本日は、委員の皆さんから、資料に示した課題を参考として追加の意見を出していただき、課題整理を行いたいと思う。また、もう一つの資料は、平成30年度から令和4年度までの5か年分の地域活動支援事業の実績を一覧にしたものである。なお、一覧には備品購入による事業は除いている。こちらは、今年度で地域活動支援事業が終了することから、今まで提案された事業のなかで牧区として今後もつなげたい、残したい事業について整理する必要があると想定し、資料としたものである。前回地域協議会でも説明させていただいた、「地域協議会で取り組んでいただきたい事項」の①自主的審議事項と②地域活性化の方向性の作成の2点については同時に進めていくものだが、本日は、まず、これまでの実績である地域活動支援事業の一覧から、牧区として今後つなげたい、残したい事業について皆さんから意見を伺い、一歩前に進めるような意見交換をしたいと思うので、よろしく願います。

【西山会長】

- ・続いて、本日配布させていただいた、清水委員より作成いただいた資料について、説明を求める。

【清水委員】

- ・資料を作成したのが3月頃のため、その後の経過と異なる部分があるかもしれないが、

私なりに整理させていただいた。「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい」という基本テーマの中で、意見交換の内容等を踏まえ、まず「子育てしやすい社会づくり」が挙げられる。子どもの交流できるクラブや教室、目標となる発表の場の必要性等を踏まえ、親子が交流できるようなカフェ等の場がほしいとの意見があった。他にも、コインランドリーの設置など、若い人たちが望んでいるものを伺えた。また、中山間地域における市営住宅料金の特典を挙げさせていただいたが、料金が市で一律となり、町場へ人が流れてしまう傾向が強いため、現状のままで良いかは市に対しての提言になると思われる。そして、公共交通の確保については、前回地域協議会で予約型コミュニティバスの説明があったように、改善が進んでいると思われる。

2点目は、「高齢者に優しい社会づくり」についてである。雪から身を守る体制の確立は、牧振興会で除雪機を活用した除雪支援を計画していることから、今までと情勢が変わってくることも考えられ、それらを含めた提案である。また、高齢者の生きがいづくりということで、伝統食文化の伝承や野菜づくり、子どもの見守りやクラブ活動の促進が生きがいにつながるとと思われる。交通手段の確保についても、「子育てしやすい社会づくり」の中でも述べたように情勢が変わってきている。そして、農作業の手助け体制の確立では、農作業を続けたいが機械作業がなかなかできない方を手助けすることで活動の場が広がると思われる。

3点目は、「支え合う社会づくり」についてである。牧区のみで考えるのではなく、移住者の受け入れが必要ではないか。その中で、空き家の活用や耕作作業の応援が挙げられる。また、地域農業を支える農業者の連携活動は、専業農家や法人が精いっぱい頑張っているものの、限界になりつつあるのではないか。農業法人を設立することによる従事者の確保が必要だと考えられる。ライフラインの確保については、店舗や移動販売車などが挙げられる。

4点目は、「自然の豊かさを生かした循環型経済の確立」についてである。意見交換の中でもあったように、町場に近い利点の発揮として、町場から通う土日農業の実践、趣味・副業の野菜づくりの実践、直売所の活用が挙げられる。また、高齢者の活動機会の提供は、山菜取りや福祉療法での野菜づくりが挙げられるほか、新たに林業の産業化ということで、市長もそのような意向が強い。

今程説明させていただいた1枚目は全体の長期的な視点を踏まえたプランを基にして

おり、2枚目は具体的にどのようなことを考えていけば良いのかを整理させていただいた。項目ごとに政策の目的を、その中で行政の役割と地域・組織の役割を整理させていただいた。時間も限られていることから、各自で内容をご覧いただき、ご意見等があればお聞きしたいと思う。この考え方は市への政策提案でもあり、地区で予算付けすることを含めたうえで検討願いたいと思い、題だしさせていただいた。

【西山会長】

- ・今程、事務局と清水委員より説明いただいた内容について、委員の皆さんからもご意見を伺いたいと思う。それでは、発言をお願いします。

【清水委員】

- ・今程の説明を補足させていただく。各組織と意見交換を行って印象的だったのは、子育ての関係で子どもの減少に伴い、親の交流の場も少なくなっていることである。そのため、親の交流の場を含めた手立てが必要だと考え、カフェの設置を提案させていただいた。2点目は、町場に近いうことを利点として農業振興を考えることである。牧区に住んでいる人だけではなく、町場から人を呼び寄せて農業に取り組むことや耕作放棄地をできるだけ出さないようにする手立てが必要である。3点目は、主業ではなく副業として店舗を運営することで、自分自身も楽しみ、地域の交流の場になれば良いという気持ちである。主業ばかりを考えるのではなく、副業的な要素で地域として活性化を試みる。これら3つの印象的だったことを含め、まとめさせていただいた。

【西山会長】

- ・他にご意見等はないか。事務局の説明にもあったように、地域活動支援事業で提案された事業の中には継続して実施している事業もあることから、地域活動支援事業が終了することによって活動できない団体が出てくることも懸念される。その点についても委員の皆さんからご意見等はないか。それでは、お一人ずつ意見を伺いたいと思う。横尾委員より意見を求める。

【横尾委員】

- ・内容が奥深くなってしまい、一口に言えない。清水委員から資料を作成いただいたものを具体化していく中で、問題点は、今まで取り組んできている延長線上にあるものもあれば、新たに取り組んでいくものもある。現段階で正直な答えは出ない。

【難波委員】

- ・合併前に公民館が主催して行っていた事業があった。地域活動支援事業を活用して実施している牧文化協会の事業も、本来市の方で実施する形が最も良いと思われ、事業を継続していくためには、それらを拾い上げていく必要がある。例えば、灯の回廊や牧文化協会の夢まつりが挙げられる。また、先日も話したが、宮口古墳公園の花壇整備に関しては本来市の施設であることから、予算要求をしていただいた方が良いと考える。そして、清水委員に作成いただいた資料については、ごもつともであり、長期的な計画で進めていくのであれば良いと思われる一方、内容が多く、どれから取り組むかを考えると難しいところがある。一度に取り組むことができれば良いが、なかなかそうはいかない。優先順位をつけて審議していくのか、広く浅く取り組むのか、あるいは絞って深く取り組むのかといったところである。

【西山会長】

- ・地域活動支援事業が終了することによって、現在事業を継続している提案団体が今後どのように考えているのかをつかむ必要がある。その点についても意見を伺いたい。高澤委員に意見を求める。

【高澤委員】

- ・確かに、地域活動支援事業は今年度で終了し、来年度からは廃止されてしまう。今年度も8団体から提案があったが、それらの団体が全く補助金のない状態で活動するのは無理に近いと思う。各団体に聞かないと分からないが、今まで事業を実施されてきた方が継続して行うことは不可能だと思われるため、イベント等は致し方ないものの、花壇や荒廃地の整備、祭り等に関しては市の方から助成を受け、継続して実施できるようにしていただきたい。

【清水委員】

- ・地域活動支援事業にも関わることだが、子どもたちが交流する場である「わんぱく村」について、今年から公民館事業として予算化し、対応できるとのことである。このように整理して予算化できるものであれば事が足りる。それから、宮口古墳公園の花壇整備とふるさと村の荒廃地整備に関しても、体制は整っているものの、予算化がどうなるかによってやり方が一気に変わってくる。それらを地区の予算で対応できるかどうかであり、可能であれば予算としてあげていただくのが良い。いずれの事業も、単年度ではなく、長期的な視点で実施していることから、予算化の必要性があると思わ

れる。

【佐藤委員】

- ・清水委員から、どのような分野が必要なのかということをもとめていただき、とても分かりやすかった。例えば、花の植栽といった環境整備の部門、牧振興会のイベントに加えて子育て支援事業の部門、屋根の雪掘りや道付けといった雪対策などの生活維持の部門、農業や林業といった商工関係の部門など、4つ程度の重点的な部門に区分けして、その受け皿をどうするのが考えられる。例えば、牧振興会有一些程度を受けて、花の植栽や子育て支援等に取り組むところに対して分配するような形をとることも想定される。区分けした分野に対して補助が受けられるようにし、地域ごとに取り組んでいけるような体制にすることで、私たちが生活するための必要度を明確にしていければ良いと考える。

【坂井委員】

- ・清水委員の骨格となる案について、この4点は牧区にとっても重要なことだと考える。今まで自主的審議事項として、様々な団体等と意見交換を行ったことがこの4点に納まっていると感じる。それを文面にしていただき、共感するところが多くあった。何か一つに絞ることは容易ではないが、例として、最近牧区のJAは水曜日が休みとなり、対応する店員も二人体制から一人体制になっているとのことである。しかし、牧区に暮らす高齢者や子どもたちが牧区に住み続けたいと思った時に、頼りとなる店舗がないと町場に流れてしまう。そういった点では、高齢者や子ども、若い世代に来てもらえるようにするために、市営住宅の特典などを区の中で提案して、市に提言するのも一つの案だと思う。また、「自然の豊かさを生かした循環型経済の確立」として、牧区は長生きされる方が多く、その秘訣として田んぼや畑に出ることを生きがいとしていることが挙げられる。さらに、高齢者の生きがいを文面に加えて、高齢者と子どもたちが一緒に野菜作りをできるような機会をつくり、区外から人を呼ぶことなども一つの案だと思う。それらを踏まえて政策立案等も考えていければ良いと思う。また、地域活動支援事業に関しては、公民館事業にできるものはするが、NPO法人として牧振興会に委ね、主として牧区の様々なことを提案していく事業をつくることできれば理想的であり、とても重要なことだと思われる。可能であれば、カフェやコインランドリーもほしい。加えて、ふるさと村の景色もとてもきれいなので、一面花畑に

したい。宮口古墳公園の花壇整備に関しては、とてもきれいに整備されているが、やはり地域活動支援事業ではなく市として予算をつけても良いのではないかと思った。

【折笠委員】

- ・話がとても広がっているが、9月までに結論を出さなければならない前提が大きくあると思う。今年は割り切って、昨年から意見交換を行っている「子育て」関係を深掘りし、予算化まである程度目途を付けた方が良いと思われる。地域活動支援事業についても継続して実施しているものは外せないため。二本立てで9月までにある程度取り組んだ方が良い。

【小黒委員】

- ・清水委員の出された案に関してはとてもすばらしく、これらに全て取り組むことができたら牧区はとても良いところになると感銘を受けた。一方で、数が多く、全てできるわけではないので、どれに絞るかから始めていかなければならない。今程、折笠委員が言われたように、今からこれらに取り組んで、9月までに答えを出すことは非常に難しい。それらを考えると、ひとまず「子育て」関係についてまとめ、市の方へあげることは難しくないことだと思う。地域活動支援事業に関しては、今年度限りで市長が廃止すると提言していることから考えを切り替え、牧区内の子どもたちや保護者で行った意見交換の中で出たものを一つでも二つでも取り組むことができれば良いと思う。その後、清水委員の政策を並行して動きつつ、一つでも二つでもあげていくことができれば良いと思う。

【西山会長】

- ・前回も話をさせていただいたが、灯の回廊について、牧区は地域活動支援事業を毎年活用していたが、安塚区や大島区は活用せずに運営してきた。その差はすぐに埋められるものではない。今となっては牧区だけやめることは私はできないと思う。

【小黒委員】

- ・やめることは可能であり、牧区として灯の回廊はやめた方が良いと思う。理由としては、安塚区、大島区、浦川原区はつながっているが、牧区の場合は袋小路で後につながらない。その違いは大きい。

【西山会長】

- ・この件については、後日改めて議論したいと思う。

【山岸所長】

- ・ 小黒委員が言われたように、市長が地域活動支援事業は今年度で廃止と提言していることから、よほどのことがない限り復活はしないところである。ただ、地域活動支援事業は廃止となるが「地域を元気にするために必要な提案事業」として、地域の方が実施することによって地域に活性化をもたらす取り組みに金銭的補助が必要となったり、今まで地域活動支援事業を活用し継続していた事業を欠かすことはできないために実施を希望する声があれば、地域協議会が関わりながら提案事業としてあげることが可能である。そのため、地域活動支援事業が終了する一方で、活用していた事業そのものを提案できないということではない。その点だけ訂正させていただく。

【小黒委員】

- ・ 提案をあげることは可能ということか。

【山岸所長】

- ・ そのとおりである。

【西山会長】

- ・ 先日、市長との対話集会にて、今程小黒委員が言われたように地域活動支援事業が終了することによって自主財源がない団体は今後どうするのかを申し上げたところ、市長は予算化を求めるとのことであった。

【小黒委員】

- ・ 予算化することは可能だが、当然市の審査があるため、提案しても却下される可能性もある。

【西山会長】

- ・ 地域活動支援事業については、今後も議論していく必要があるため、また皆さんの方で考えてきていただきたいと思う。井上委員に意見を求める。

【井上委員】

- ・ 清水委員が作成された良い提案を大事に考えていきたい。地域活動支援事業は廃止されるが、牧区の方の色々な考えや夢、地域の良さが分かり、良いものだったと感じている。それを12名の地域協議会委員と事務局で全ての目配りをするは大変だが、今後話し合いを進めていきたいと思う。先日の市長との対話集会や今までの地域協議会でも感じてきたが、牧区で長く生きていくためにはお金を稼ぐなどの生活が成り立

たなければならない。やはり農業は大事だと思われ、メープルシロップを作れば行く行くは2億円という話もあり、お金を稼ぐことができる産業も大事だと考える。他にも、意見交換会で話が出たように、長く住むのではなく、一時的に良い時期だけ住むことによって、住み続けようという強い気持ちを必要としない定住の考え方もある。また、副業の観点から考えると、強い産業とゆるやかな産業など、色々な産業がある地域になれば良いと思っている。そのような方を応援したり、考えや希望を聞く機会も大切だと思う。具体的なことはこれから話し合いを進めていくとして、ここで生きていくために必要なことについてはJAの話が話題になると思われる。ただ、建物を建てる等のハード事業の面で、建てたはいいが全く使用しないとなるとお金を無駄にすることになるため、慎重に進めた方が良く思う。

【池田委員】

- ・まず、事務局が用意された資料や清水委員が作成された資料を見ると、事細かく記載されていて非常に分かりやすいという感想を持った。自主的審議事項については、来年度に実施可能であるものに対する予算要求が9月までだと私は認識している。一方で、自主的審議事項に伴う活動として継続して行ってきたものの中から何か一つを決めて、予算要求を行うと私は認識していない。清水委員の資料にて行政の役割や地域組織の役割のように項目ごとに紐づけしていただいている。各項目に対し、どの団体と協力して問題解決していった方が良いのかを深掘りした上で、小黒委員が言われたように優先順位をつけた中で取り組んでいくのが最も良いと感じる。また、地域活動支援事業については来年度以降予算がつかないということなので、予算要求においては、こちらを優先すべきだと思う。来年度も継続を希望する事業に対し、予算要求をする動きになるかと思われる。最後に、来年は良いが来年以降も続いていくと考えられる。来年度以降違う団体が新規の事業を行う際に、それらの意見をどのように取り上げて予算要求していくのかも課題であり、皆さんの意見を聞かせていただいたところである。

【飯田副会長】

- ・「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい『牧づくり』について」に沿って、事務局や清水委員からまとめていただいたが、人口減少や交通の問題、産業の3つは避けて通れない問題であり、地域協議会として話を進めていかなければならない。そして、我々

だけで協議するのではなく、他の団体と連携していく必要がある。前市長の場合、地域協議会は諮問機関という認識が非常に強かったが、中川市長は地域協議会を提案型・積極型といった、意見を出して地域を変えていくぐらいの強い思いがあり、我々の責任感も当然変わってくると思われる。また、地域活動支援事業について、夢まつりや灯の回廊については、各町内やスポーツ団体ではなく、牧区全体で取り組んでいた事業だと思われる。それらに関しては、地域協議会として視野を広げて意見を吸い上げ、今後の動向について投げかけるぐらいはしないといけない。9月までの予算化を考えると、とても間に合わなくなってくる。それまでに地域活動支援事業で行われていた事業やイベントを今後牧区として本当に残したいのか、残さなくて良いのかを地域協議会と各団体で話し合い、「元気にするために必要な提案事業」としてあげるのかを1か月、2か月で皆さんと取り組んでいった方が良いのではないかと。取り組まなければ間に合わなくなる令和6年度を目標に取り組もうとしても、1年休めば大変だと思われる。

【横尾委員】

- ・最初に意見を求められた際は具体的に答えることができなかったが、他の委員の話を伺い、言いたいことがまとまってきた。清水委員からまとめていただいた資料について、まさにこのとおりだと思う。そして、各委員の話でも出た「地域を元気にするために必要な提案事業」について、今まで地域活動支援事業として取り組んできたものの延長線上にあり、意見書の提出や、地域内での問題解決、事業の提案といった具体的な手法を用いて各地域で活躍されてきた事業を拾い上げ、それらに肉付けをしていかなければならない。その中で地区全体で取り組んでいる事業と地区ごとに取り組んでいる事業に分類する。そして、自主的審議事項については、清水委員から非常に具体的にまとめていただいたものを大きく2つ程度に分類し、絞り込んだ上で、予算の要望を行わなければならない。また、地域協議会だけで判断していくのか。西山会長が言われたように、総会では、牧振興会または牧振興会に類似する数多くの組織の意識を一体化する必要があるとの話も出た。それらで調整ができれば、今後絞り込んだものが見えてくるとと思われる。

【西山会長】

- ・皆さんの意見を伺ったことから、次回に向けて今回出された意見内容を吟味し、予算

要求していく内容の方向性の話し合いを進めていきたいと思う。

【山岸所長】

- ・ 清水委員の案については、来年に一つ、二つ程度に集中して取り組み、予算要求や意見書を提出できることも考えられるが、長年続いてきた地域活動支援事業が終了し、今後地域の独自予算として地域協議会が中心となって、地域の声を聞きながら予算要求していくことを考えると、たった1年や2年で終わるとは思えない。先程、折笠委員が言われたように、二本立てで進めていくことも考えられる。まずは、地域活動支援事業で今年度まで補助されていたものが全くなくなってしまうことから、それらの団体に意見を聞くことは無視できないところである。そのため、順序としては提案団体に意見を聞くことを先に進めた方が良いと思われる。

【難波委員】

- ・ 山岸所長がおっしゃることも理解できる。一方で、地域活動支援事業が終了することは提案団体も承知していることである。次年度以降、意見書の提出など様々な対応が想定されるが、今年は、個々に意見を聞いたり提案を出してもらおうと時間的に間に合わないのではないか。

【山岸所長】

- ・ 例えば、宮口古墳公園の花壇整備や檜谷大橋の花の植栽、中でも長年継続して実施されている沖見地区の花の植栽は、今後補助金がないために実施しない意向なのか、あるいは地域でお金を出し合うかは分からないが、提案団体が自分たちの地域を盛り上げることに繋がるといった事業の実施を強く希望する思いがあれば、その思いを地域協議会として協議し、市に予算要求する流れとなる。それらを整理する方が、一から農業について予算要求や仕組みづくりを考えるよりは救いにつながると考えられる。

【飯田副会長】

- ・ 地域活動支援事業は廃止されるが、市長の「地域の昔からの伝統的なものや歴史的なものは、地域協議会が中心となって吸い上げていく」言葉は地域活動支援事業の継続だと私は思う。今まで地域活動支援事業を活用して大々的に行ってきたものを廃止になったからと言ってきっぱりやめてしまえば、地域は終わってしまう。地域協議会や他の団体と地域として残していく事業等を話し合っていくことが今回の「地域を元気にするために必要な提案事業」だと思われる。小黒委員が言われたように、灯の回廊

の開催に反対する意見もあれば、毎年牧区に来ることを楽しみにしているという意見もある。そのため、皆さんの声を聞き、牧区として残していきたい、あるいは残していかなければならないものを「地域を元気にするために必要な提案事業」として提案していかなければならないと思う。また、自主的審議事項の中にも様々な案があり、さらに深掘りして予算要求につなげるのか、「地域を元気にするために必要な提案事業」や「意見書の提出」になるのか、これからの話し合いで協議していきたい。

【難波委員】

- ・意見を聞くことが悪いということではない。先程申し上げたように、取り急ぎ、従来公民館で行っていた公民館事業や牧区全域に関わるものをピックアップしていったらどうかというところである。清水委員から作成いただいた4つの大項目を見ると、2点目の「高齢者に優しい社会づくり」は牧振興会が取り組んでいる。そのため、「高齢者に優しい社会づくり」と「支え合う社会づくり」については、牧振興会もしくは公民館にある程度委ねても良いと思われる。「高齢者に優しい社会づくり」と「自然の豊かさを生かした循環型経済の確立」については、他の項目と一緒にして良いかもしれないが、高齢者と地域の産業を絡め、JAや農業法人に問い合わせることが考えられる。また、「子育てしやすい社会づくり」について、従来どおりいけば公民館事業の部分が多々ある。牧っ子を育てる会など様々な組織があるので、それらとの連携になると思われる。単発の町内まで細かく聞いていると時間がかかることが想定されるため、意見を聞かなくても良いと申し上げた。牧区全体に関わることは意見を聞きながら進めていった方が良いと申し上げたつもりである。

【山岸所長】

- ・単発の町内のものを区を活性化する事業としてあげることはなかなか難しい。例えば、沖見地区の花の植栽や宮口古墳公園の花壇整備を「花の植栽」という括りで一緒に考えていくことができれば良い。

【難波委員】

- ・地域活動支援事業のヒアリングでも申し上げたが、宮口古墳公園の整備に関しては市の仕事ではないかと私は思う。

【山岸所長】

- ・市としては、施設の管理はしっかりと行っており、花の植栽までは考えていないとい

うところである。

【難波委員】

- ・令和6年度予算からは、的確に意見を出してもらうことを行っても良いと個人的に思う。我々地域協議会はもちろん、牧区の住民も地域活動支援事業に代わるものに関わるのは初めてのことである。

【横尾委員】

- ・提案してもらうことを考えると、明確な要項や基準がない。例えば、自主的審議事項の中で必要なものを絞り込んでいく際、ある程度地域協議会で進めていく必要がある。また、「地域を元気にするために必要な提案事業」では、提案されたものを審査して交付するという考えではなく、明確に提案するための要項や基準をきちんと設けたものを示し、申し込む形にしないと難しくなることが想定される。

【山岸所長】

- ・今程横尾委員が言われたのは、「地域を元気にするために必要な提案事業」が地域活動支援事業に代わるものとして提案募集型の話をされたと思うが、少し違う。地域協議会が主となって何が必要なかを考えることから始まる。提案型も考えられるが、このような動きの中、地域協議会が予算要求を行える立場となり、個々の考えを受ける機会も想定される。しかしながら、実際に中郷区のようにアンケート形式で何が必要かなどを把握しているところもあるため、動きとしては様々なパターンが考えられる。

【西山会長】

- ・差し当たって、灯の回廊は今年の冬は実施できるが、来年以降は補助がなければ実施できないと思われる。

【横尾委員】

- ・灯の回廊について、地域活動支援事業に代わる予算がないと実施できないという意見は今までも出てきたが、それ自体おかしい。別の予算のつけ方も考えられる。

【西山会長】

- ・ろうそくやコップは配布される一方で、補助がない中で交通整備や重機の問題のことを考えるとやめる方向性になってしまう。市長の考えとしては、市に予算要求をするべきとのことである。

【飯田副会長】

- ・それらの意見や要望を各団体等から吸い上げたり、調整を行うのが地域協議会と総合事務所の立場だと考える。前市長の諮問機関の考え方を踏まえると、今までよりも責任がある。

【西山会長】

- ・具体的に話がまとまってきているので、灯の回廊と花の植栽の二つに絞り、検討していくことでよろしいか。

【佐藤委員】

- ・今年度の地域活動支援事業にて採択となった事業に対し、まず予算化されなくても活動を行うことが可能なのか等のアンケートを取る。それから、それ以外のところで新しい動きや意見交換をさせていただいた団体にも予算化の必要があるかどうかを絞り込む。団体の数も多くはないので、そこからまず意見を吸い上げ、どれくらいの必要度があるかをはかってみてはどうか。委員の皆さんも個々に思っていることがあると思われる。理想ばかり追いかけるのではなく、まず今年度地域活動支援事業に採択された団体へ聞き、それから意見交換をした方へ聞くことから始めてみてはどうか。

【西山会長】

- ・提案団体について、今年度採択された8団体のみに聞くのか、あるいは他の団体にも聞くのか。

【難波委員】

- ・今年度採択された団体のみに聞くのもおかしい。

【西山会長】

- ・私も同感である。

【佐藤委員】

- ・事業を提案されたということは、自分たちの地域の活動に地域活動支援事業の予算が必要だということである。その地域活動支援事業が今年度で終了することを受け、終わったら事業をやめるか、あるいは自主財源で継続するかを手始めに聞き、そこから聞く対象を広げて、何が必要かを考えても良いと思う。

【小黒委員】

- ・中には町内会が提案したものも多くある。牧区全体として、牧振興会や牧文化協会な

どの団体の事業を推す方が自然だと思われる。牧区全体のことを考えないと、全く意味のない話になる。

【藤井班長】

- ・事務局も同様に考えている。牧区全体を見て、地域の活性化につながる事業を絞り込んでいただきたい。

【小黒委員】

- ・個々の町内会の考えはまっさらにして、牧区全体として考えないと意味がないものだと思う。

【西山会長】

- ・小黒委員の言うとおりでと思う。例えば、今年度駐車場の造成事業として採択された泉町内会は、事業としてある程度の形ができたとのことである。そこへさらに補助金の話をしてしまうと上手くない。そうではなく、牧区全体の事業である灯の回廊や、牧振興会、花の植栽など、ある程度絞った形で進めていかないとまとまらない。可能であれば、そのような方向性で進めていきたいと思う。

【小林次長】

- ・今程西山会長からも話があったように、事務局としても牧区の各所で行っている花の植栽を牧区全体で実施して元気をもたらすことを考えた時に、「地域を元気にするために必要な提案事業」として提案したい。灯の回廊に関しても同様に、各町内で取り組むのではなく牧区全体で考えた時に必要性があるか否か。さらに、現在事業に従事されている皆さんが今後も従事されるか否かを考えた上で、活性化事業としてつなげていきたい。これらの意見を伺いたいというところなので、牧区として今後残していくか否か、さらに団体がどのように考えているのかをお聞きした上で、残すべきと判断したものであれば「地域を元気にするために必要な提案事業」として残していく方法があるということをご理解いただきたい。また、清水委員が作成された提案は、できるものとできないものがあると思われるが、それらを一つずつ皆さんと議論していき、今後の方向性を作成することにつなげていく。もしくは、令和6年度以降の将来につなげていく提案の一つとして考えていただければ良いと思われる。これら二つの内容があるが、一つずつやっていると事務局で整理ができないところもある。資料を二つ投げてしまったことは事務局として対応が良くなかったが、まず地域活動支援事

業の部分を一つ整理し、意見交換につなげることができれば、話が前進していくと思われるので、もう少し整理していただければと思う。

【井上委員】

- ・今程の話だと、長期的なものと令和5年度のもの二つに分け、ひとまず令和5年度の予算をどうするか考え、牧区全体に関わる事業として予算要求する必要があるものを「地域を元気にするために必要な提案事業」に提案していくということか。しかし、その「地域を元気にするために必要な提案事業」を考えることだけが全てではないという解釈でよろしいか。

【山岸所長】

- ・そのとおりであるが、9月の予算要求を目指すのであれば、まずは地域活動支援事業が廃止されることへの対応を優先した方が良くはないかとの話である。

【横尾委員】

- ・今程小林次長が言われたように、牧区全体として考えることから、細かな聞き取りまでは行わないということか。

【山岸所長】

- ・地域協議会として聞き取りを行う団体をピックアップいただき、地域活動支援事業が終了しても事業を継続できるのか、事業を継続するにあたり補助が必要か等、質問事項をある程度絞った方が良くと思われる。

【横尾委員】

- ・地域協議会として、資料に記載されている事業の一覧から話を聞きたい団体を判断するということか。

【西山会長】

- ・可能であれば、決めていただきたい。

【小黒委員】

- ・先程申し上げたように、牧区全体の話をしているため、宮口古墳公園や檜谷大橋の花の植栽などは全て除外する。例えば、牧文化協会や牧振興会などを推せば良いことであり、それほど難しい話ではない。地域ごとに花の植栽が分かれていることを言い出すときりが無い。

【山岸所長】

- ・ 小黒委員の話を踏まえると、牧区地区協議会の灯の回廊の関係、牧振興会、牧文化協会ということか。3月に行われた地域活動支援事業事前説明会にて、花の植栽を行う提案団体より「地域活動支援事業は廃止となるが、その後に市として何か考えはあるのか」との質問があった。その際、「地域を元気にするために必要な提案事業」が具体的ではなかったため、話をすることはできなかったが、このような要望があった中で聞き取りをしないのはいかがなものかと思う。それらを考えた時に、花の植栽という絡みで沖見地区だけではなく、宮口古墳公園を整備される団体に話を聞くことも一つの手だと考える。

【小黒委員】

- ・ 意見を聞くことは良い。ただ、牧区全体のことを聞くのが根本であるため、そこを中心に考えるべきという話である。

【清水委員】

- ・ 牧区全体のことを聞くとのことだが、私はそれよりも自主的に活動を行いたいという仲間を作って育てる活動の方がより一層効果があると思う。事業費があるために活動を行うのではなく、理想の姿を実現するために組織を作った前提のもと、事業費を活用する方が地域としては活性化につながる。

【西山会長】

- ・ 清水委員が言われることも理解できるが、9月までに予算要求することを考えると厳しい。

【清水委員】

- ・ 逆に言えば、灯の回廊は地区で考えることではなく、市の観光で考えるべきことである。

【山岸所長】

- ・ 以前も話したが、灯の回廊に地域活動支援事業を活用してきた区が限られている中で、市のスタンスが変わらなければ予算はない。予算がないために事業やめることが地域の考えであればそれに準ずるが、一部の人で考えてそのような答えを出して良いのかどうかというところである。

【清水委員】

- ・ 地区からのスタートではないため、無理して実施する必要はないのではないかと。

【山岸所長】

- ・灯の回廊について、当初は牧区と先進的に行っていた地区では考え方に大きなギャップがあった。内部の話になるが、総合事務所が深く関わっているのは牧区のみである。他区は地域の方が行っていて、総合事務所は手伝う程度である。牧区に関しては、行政からの働きかけがあった。

【清水委員】

- ・こちらからすれば、観光から言われたという受け止め方である。

【山岸所長】

- ・総合事務所も関わる中で依頼するという形だったと思われる。当初からろうそくと紙コップの支給のみだったが、せっかくなら綺麗にしたい、皆さんの安全を守りたいという牧村人氣質もあり、費用がかかることから地域活動支援事業を活用する流れになったと思う。嫌々事業を行っていて、地域協議会で予算をつけることがかえって皆さんの足かせになるようなことであれば、良くないことである。

【清水委員】

- ・逆である。地域の人たちは、本来ならやめたいと思っているが、予算があれば何とか対応するという度合いである。

【山岸所長】

- ・そういうことであれば市の観光の方に話をさせていただく。当初はギネス世界記録に挑戦を試みようとしたが基準に合わないということでお釈迦になり、その時点で牧区に対して話があれば良かったが現在に至るところである。

【小黒委員】

- ・牧区は先進的に始めたわけではないため、無理強いされているように感じる。自発的に加わったわけではないことからやめた方がよい。

【西山会長】

- ・ただ、牧区がやめて済む話なのかを考えなければならない。

【清水委員】

- ・それは市の観光で考えるべきである。

【山岸所長】

- ・そこは確認させていただくが、清水委員や小黒委員は無理強いされていると感じるこ

とからやめた方が良いとのことだが、他の皆さんが同意見なのかが気になるところである。

【清水委員】

- ・私ではなく、実際に動いている人たちの考えである。

【山岸所長】

- ・白峰地区は少し違うように感じる。

【佐藤委員】

- ・なかなか人材も少ない中で頑張っていることから、重機の費用等の予算は出していたかないと辛い部分はある。

【難波委員】

- ・自分たちで楽しもうと思って始めた安塚区と、後から行政に声をかけられた牧区では違いが生じる。コロナ禍でもやめずに実施してきたのは、言い方は悪いものの市の圧力だと個人的に思う。市が主導してきたからこそ今年まで実施してきたが、牧区だけで独自に安塚区レベルのことは行うことはできなかったと思われる。

【西山会長】

- ・灯の回廊に併せて牧振興会では雪上花火を実施しているが、なくなればそれらについても考えなければならない。

【小黒委員】

- ・仮に実施するのであれば、牧コミュニティプラザの場所のみで実施すれば良い。各地区で行えば力が分散してしまう。そこに多くの方が集まって手伝うことができれば、かなり状況は違ってくると思われる。

【西山会長】

- ・その点については検討する余地がある。ただ、今年は中止となったが川上地区の迷路はかなり評判が良い。

【横尾委員】

- ・体力的に辛くなってきている。しかし、牧区全体の事業として取り組んでいるにも関わらずやめてしまうと、下火になる。

【西山会長】

- ・時間も経過しているため、次回地域協議会までに灯の回廊、牧振興会、牧文化協会、

花の植栽の四つに絞った形で関係先と話を進めていきたいと思う。

【飯田副会長】

- ・次回定例会は21日だが、提案団体との意見交換は実施しないのか。

【山岸所長】

- ・意見交換会の開催に伴い、提案団体へ声かけを行うことは可能である。

【西山会長】

- ・アンケートは時間もかかり、聞き方によっては違う方向に進んでしまう。直接意見交換を行う形の方が話は早い。

【山岸所長】

- ・一堂に会し、平日の夜もしくは日中の開催といったところか。

【飯田副会長】

- ・総合事務所も交えたうえで、地域協議会委員12名と出席される提案団体の方で1回は意見交換会の場を設けた方が良い。我々地域協議会委員だけで判断するべきではないと思われる。

【西山会長】

- ・そのとおりである。

【難波委員】

- ・我々も今までと異なり、審査する側ではなく提案する側である。様々な意見を聞かなければならない。

【西山会長】

- ・意見交換会の時間帯について、時間帯は夜の方がよろしいか。また、地区協議会に関しては4地区の会長から来てもらうことでよろしいか。

【清水委員】

- ・当番幹事は白峰地区である。

【西山会長】

- ・白峰地区の会長のみ来ることでよろしいか。

【山岸所長】

- ・白峰地区の会長のみに来ていただいて、それを各地区協議会の皆さんにお伝えするということか。たまたま幹事になっているだけであり、一人で判断を行うことはできな

いと思われる。

【西山会長】

- ・4地区の会長に出席いただく方が良いと思われる。牧地区振興協議会である清水委員がどちらの立場に立たれるかは、本人の判断にお任せする。

【飯田副会長】

- ・委員の中にはお勤めの方もいらっしゃるが、夕方6時頃は早すぎるか。

【藤井班長】

- ・時間帯は平日の夜6時30分からでどうか。次回定例会は6月21日となるが、相手方の皆さんに通知する関係もあることから、7月に入ることも考えられる。

【飯田副会長】

- ・次回定例会が6月21日、4区合同研修が24日にあるため、早くても27日から30日の間ではないか。7月に入れば参議院選挙もある。

【山岸所長】

- ・29日、30日は予定が入っているため、28日が考えられる。

【藤井班長】

- ・今程の意見を踏まえたうえで日程を調整し、6月末の開催を目途に進めていきたいと思う。

【西山会長】

- ・意見交換会の開催を6月末を目途に進めることとして、自主的審議事項を終了する。続いて連絡事項について事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・「主要事業・プロジェクトの概要」（企画政策課）の配布について

【藤井班長】

- ・4区地域協議会委員合同研修について
- ・次回地域協議会の開催について、第4回牧区地域協議会は6月21日（火）午後6時30分開催となる。後日案内文を送付するので報告をお願いしたいと思う。

【小林次長】

- ・「学校の適正配置に係る牧小中学校区の状況」に関する勉強会の開催について

【佐々木グループ長】

- ・あいさつ運動について

【西山会長】

- ・飯田副会長に閉会のあいさつをお願いします。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。